

古文書のいろは ―夫婦になること―

クラス
コード

62A26

曜日時間 土曜10:55~12:25

受講料 13,200円

定員 30名

単位 1単位

概要 最初に、江戸時代の版本を読んでくずし字に親しんだあと、比較的読みやすい文書のなかから、庶民の夫婦生活に関する史料を読みます。くずし字を学びながら、日本の「家族」に対する意識変化の過程についても考えます。

講師 櫻井彦

宮内庁書陵部 文書研究官 専門/日本中世史
中世社会における民衆の動きを中心に研究しながら、主に前近代の古文書・古記録の調査・整理を行っている

テキスト プリントを配付します

内容 5月25日~7月6日 (全6回)

- ① 5月25日
- ② 6月8日
- ③ 6月15日
- ④ 6月22日
- ⑤ 6月29日
- ⑥ 7月6日

現在、「夫婦」の形は実に多様になってきており、両者の自由な関係が尊重されていると言ってよいでしょう。しかし江戸時代、「夫婦」になるということは特別な意味を持っており、とくに両者以外の「家族」の存在を無視することはできませんでした。そこで今回は、「夫婦」をめぐる史料から、その後の「家族」を意識した史料を読みつつ、夫婦となった二人が直面する課題について、前後の時代との違いも含めて考えてみます。